

## 岡山市入札外部審議委員会の概要

平成30年度第1回岡山市入札外部審議委員会(以下「審議委員会」という。)を下記のとおり開催しましたので、その概要についてお知らせいたします。

### 記

#### 1 開催日

平成30年5月30日(水) 午前10時00分から午後0時00分

#### 2 開催場所

岡山市水道局 6階 研修室

#### 3 出席委員(敬称略 五十音順)

岡崎 優子, 齊藤 政子, 中川 豊隆, 的場 真介, 和田 治郎

#### 4 事務局

##### (1)岡山市財政局

仁藤財務部長, 道広契約課長, 内海工事契約担当課長, 大月契約課課長補佐(管理係長),

川上契約課工事契約係長, 大木契約課物品契約係長, 堀井契約課指導係長,

黒石契約課副主査, 島契約課副主査

##### (2)岡山市水道局

西井総務部長, 國富管財課長, 御幡管財課課長補佐, 兒子管財課契約係長,

小西管財課副主査, 松井管財課主任

#### 5 会議次第

##### (1)開会

##### (2)議題

1 平成29年度7月及び平成30年度入札契約制度の改正について

2 平成29年度契約状況等の報告について

(1)岡山市

(2)水道局

3 その他

#### 6 会議概要

## 1 平成29年度7月及び平成30年度入札契約制度の改正について

委員：制度改正の業者側への影響はどの程度あるのか。

市当局：直接工事費の参入率が2パーセント上がることにより、今までの入札額では失格になる場合がある。当然落札額は上がる。国の制度に倣って、見直しを行っている。

委員：品質確保という観点からすると、原価率の改善が必要になる。原価と収益とのバランスに関する数字は持っているのか。

市当局：そうした数字を業者から入手し、分析して施策につなげていくことは市町村レベルではできていない。国の調査を活用して仕様を定めているのが実態である。

委員：労務費部分の算入率見直しは、建設業労働者の給与反映に結びつくのか。

市当局：国交省としては、労務費をしっかりと確保していくという方針の下、算入率を上げることにより、給与等に反映されることを意図している。

委員：前回か前々回の委員会で、最低制限価格に関して、入札数が多い種目にはランダム基準に最低の数値を用いればよいと提案した。検討しないのか。

市当局：最低制限価格の算定にランダムな数字を用いている意味としては、競争性の中に不確定要素を入れているということだ。最低制限価格は国が定めた、これ以下では建設業界に必ずしも好ましくない状態が生まれる、という数字であり、入札の実態に合わせてわれわれの物差しで数値を下げることはしていない。工事がその時できるだけいいという考えではなく、安定して仕事ができるという視点でこうした数字が国の方で出されている。国の出している数字を尊重しているのが実態である。

委員：ランダムの幅はその範囲であれば支障がないとして定められていると理解している。その範囲で状況を見ながら変えてよいのではないか。

委員：委員からこうした意見が出たことをふまえて、今後もいろいろ最善の方策を模索してほしい。

## 2 平成29年度契約状況等の報告について (1)岡山市

委員：指名停止で反社会的行為が7件とあるが、どんな内容か。

市当局：建設業法違反の容疑によって代表者が逮捕されたとか、傷害と公務執行妨害の容疑で社員が逮捕されたとか、詐欺罪で社員が起訴されたといったことが昨年度起きた。指名停止事由に該当するため指名停止を行った。

委員：委託等に関してだが、製作等というのは個別性がある。たとえば映画・ビデオ・マイクロフィルム・写真というのは1個1個頼むしかないような案件だ。他方、清掃などはさほど個別性がない。まとめて発注して契約金額を下げる方法はとれないのか。清掃をするのに特殊な技能がないとできないといったことはない。

市当局：いろんな種類の清掃があるが、各課単位で発注している場合が多く、横断的な連携はなかなかできていない。

委員：件数が多く、ある程度まとめたほうがメリットが大きいのではないかと。受注者側もある程度まとまった単位で受ける方がコスト的には有利だ。

市当局：価格だけを見ればそうかもしれないが、市内にはいろいろな業者があり、市内業者の育成も調達業務のひとつの考え方としてある。拠点、拠点で地元業者の育成も考えていかなければならない。

委員：まとめることと、育成することが相反することだとは思えない。

市当局：発注規模が大きくなればなるほどできる業者に限られる。いろいろな業務があるので、検討できるものは検討していくべきだと考えている。

委員：地元業者の育成と、適正な競争とか経済的な効率性の追求を両立させるのはなかなか難しいし大事な視点だ。今後とも引き続き検討してほしい。

### 3 平成29年度契約状況等の報告について (2)水道局

委員：応札率100パーセントでは全く競争が働いていないように見える。なぜ100パーセントになったのか。

市当局：この案件はアスファルト舗装復旧工事の単価契約であり、ある一定の面積にアスファルトを何センチひくといった内容で、ほかの工事に比べかなり積算しやすい。設計額に近い額をはじける傾向が高い。

委員：提供する商品、サービスの価格がはっきりしているのは分かる。自分を犠牲にしてもこの契約を取るという主観的な意識が働く要素を持ち込めば、競争が生まれる余地がある。調達価格を下げる努力をしてほしい。

(終了)